

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くるみ			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日	～	2025年12月31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日	～	2025年12月31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① こども一人ひとりの特性に応じた丁寧な支援ができています 点 こどもの発達状況や特性、興味関心を丁寧に把握し、個別支援計画に基づいた支援を行っている。職員間で日々情報共有を行い、こども一人ひとりに寄り添った関わりができています点が強みである。	① こども一人ひとりの特性に応じた丁寧な支援 日々の支援記録やミーティングを通じて、こどもの小さな変化や成長を職員間で共有し、支援内容の見直しや調整を行っている。また、成功体験を積み重ねられるよう、課題設定は無理のない段階から行い、こどもの自己肯定感を高める関わりを意識している。	① こども一人ひとりの特性に応じた丁寧な支援 今後は、職員の専門性向上を目的とした研修への参加や事業所内研修を充実させ、支援の質のさらなる向上を図る。また、アセスメントの視点をより明確にし、個別支援計画の内容を定期的に見直すことで、よりこどもに合った支援の提供につなげていく。
2	② 保護者との信頼関係を大切にしたい連携体制が整っている点 日々の送迎時のやり取りや連絡帳、電話連絡等を活用し、こどもの様子をこまめに保護者へ伝えることで、家庭と事業所との情報共有を図っている。保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、信頼関係を築けている点が強みである。	② 保護者との信頼関係を大切にしたい連携体制 送迎時の声かけや連絡帳、電話連絡等を活用し、こどもの様子や支援内容を具体的に伝えるよう心がけている。相談や意見があった際には、迅速かつ丁寧に対応することを意識し、保護者が安心して相談できる関係づくりに努めている。	② 保護者との信頼関係を大切にしたい連携体制 保護者面談の機会を計画的に設けるとともに、家庭での関わりを活かせる助言や情報提供の充実を図っていく。また、相談や要望をより把握しやすくするため、意見を共有できる仕組みづくりを検討し、家族支援の質の向上に努めている。
3	③ 多様な活動プログラムを通じた経験の幅を広げる支援ができています 点 制作活動や調理活動、運動遊び、外出支援など、活動内容が固定化しないよう工夫し、こどもが様々な経験を積めるよう支援している。楽しみながら社会性や生活力を育むプログラムを提供できている点が強みである。	③ 多様な活動プログラムを通じた経験の幅を広げる支援 活動プログラムは職員間で話し合いながら立案し、季節感やこどもの興味関心を取り入れるよう工夫している。また、調理活動や外出支援など日常生活につながる体験を意識的に取り入れ、楽しみながら社会性や生活力が身につくよう支援している。	③ 多様な活動プログラムを通じた経験の幅を広げる支援 活動内容がマンネリ化しないよう、地域資源の活用や外部との交流機会を取り入れるなど、新たなプログラムの検討を進めていく。また、活動の振り返りを行い、こどもの反応や成果を次のプログラムに反映させることで、より効果的な支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	① 職員の専門性や支援スキルにばらつきがある点 支援に必要な基本的な知識や対応については共有できているものの、職員の経験年数や専門分野の違いにより、支援スキルや関わり方にばらつきが見られる点が課題である。	職員の入替や経験年数の違いがある中で、体系的な研修やOJTの仕組みが十分に整備されておらず、個々の職員の経験や判断に依存した支援になりやすいため、支援スキルのばらつきにつながっていると考えられる。	職員全体の支援の質を底上げするため、定期的な事業所内研修やケース検討会を実施し、支援の考え方や対応方法の共通理解を図っていく。また、経験の浅い職員に対しては、OJTや助言を行う体制を整え、段階的にスキルを習得できるよう支援していく。
2	② 支援の振り返りや記録の活用が十分とは言えない点 日々の支援記録は作成しているが、記録内容を十分に分析し、個別支援計画や活動内容の改善に継続的に反映させる仕組みが十分に整っていない点が弱みである。	日々の業務が多忙な中で、記録を作成すること自体が目的化しやすく、記録内容を振り返りや分析に活用する時間や機会を十分に確保できていないことが、支援改善につながりにくい要因となっている。	支援記録の様式や記載内容を見直し、支援の目的や成果が分かりやすく整理できるよう工夫していく。また、定期的な振り返りの時間を設け、記録を基に支援内容や個別支援計画の見直しを行うことで、記録を支援の質向上につなげていく。
3	③ 保護者支援や家族支援の体系化が不十分な点 日常的な情報共有や個別対応は行っているものの、保護者向けの支援や相談対応について、計画的・体系的に実施する体制が十分に確立されていない点が課題である。	個別の相談や対応はその都度行っているものの、保護者支援に関する共通の方針や年間計画が明確でなく、職員間で役割分担や支援内容の整理が十分にできていないことが要因として挙げられる。	保護者面談や相談対応について年間計画を作成し、計画的に家族支援を行える体制を整えていく。また、家庭での関わりに関与する情報提供や助言の機会を増やし、保護者が安心して相談できる環境づくりを進めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	くるみ					公表日	2026年1月31日			
					利用児童数	29名		回収数	19名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19				広くてきれいな印象です。	今後も、こどもの年齢や特性、活動内容に応じてスペースの使い方を工夫し、安全面・衛生面に配慮しながら、より快適で過ごしやすい環境づくりに努めてまいります。			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19								
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19								
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17			2					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1			息子が楽しそうに通っています。	楽しさだけでなく、こどもの成長やできることの広がりにつながるよう、支援内容の振り返りと改善を継続して行っています。			
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19								
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19								
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18				1	ガイドラインを理解できていません。	ガイドラインの内容を改めて確認する研修や勉強会を実施し、「本人支援」「家族支援」「移行支援」それぞれのねらいや具体的な支援例について理解を深める機会を設ける。		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19								
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1				調理レクは普段やってあげられないので、とてもうれしいです。	調理レクリエーションについては、こどもたちが楽しみながら生活力や協調性を育む機会となっており、今後も安全面に十分配慮しながら、季節やこどもの発達段階に応じた内容を取り入れて継続的に実施していく。		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1	1	9			現在は地域の他のこどもと活動する場はありませんが、今後必要に応じて検討していく。		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19								
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19								
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	4	1	8					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19					家に帰ってきたときに、その日の様子をお聞きしています。またLINEで写真を送っていただけてありがたいです。	今後も、写真や文章による情報提供の工夫を続けながら、より分かりやすく丁寧な情報共有に努め、保護者の方と連携した支援を継続してまいります。		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	2	1			日々、会話をしています。	日々の送迎時や連絡帳等を通じて、保護者との会話の機会を設け、こどもの様子や子育てに関する助言・情報共有を行っている。		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19								
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	3	2	9		活動があるかがわからない。	保護者や兄弟の交流ニーズを把握し、保護者の負担に配慮しながら、交流の機会づくりについて検討を進めていく。		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1				LINEでやりとりしています。	こどもや保護者からの相談や申入れについては、日常的に利用しているLINEを活用し、気軽に相談できる体制を整えています。			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	2		5	その日の様子をLINEで写真を送ってくださるのうれしいです。	現在、連絡帳やLINEを活用し、その日の活動内容や子どもの様子が分かるよう情報発信を行っており、子どもや保護者が安心して利用できるよう努めています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	2		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16			3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1			異年齢の子と交流することは良いと思います。	当事業所では、異年齢での関わりを通じて、年上の子どもが年下の子どもを思いやる気持ちを育んだり、年下の子どもが年上の子ども姿を見て学ぶ機会になることを大切にしています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	くるみ		公表日		2026年1月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input checked="" type="checkbox"/>		発達支援室の広さや安全面を考慮し、活動内容に応じてグループ分けや時間調整を行っています。	活動によってはスペースが十分でない場合もあるため、定員管理や活動内容の工夫を行い、より快適な支援環境づくりを進めています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こどもの状態や活動内容に応じて職員配置を工夫し、職員間で情報共有を行いながら、安全で丁寧な支援が行えるよう努めている。	支援ニーズが高い場面では職員数に課題を感じることがあり、今後は配置の見直しや人材確保、職員の支援力向上を通して体制強化を図る必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こどもが活動の流れや過ごし方を理解しやすいよう、活動スペースや静養スペース、個別支援スペース等を明確に分け、視覚的に区別した環境構成を行っています。	設備面においても、すべての障害特性に十分対応できているとは言えず、バリアフリー化や表示方法、情報伝達手段について継続的な見直しが必要です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		日々の清掃や消毒を徹底し、こどもが安心して過ごせる清潔な環境づくりに努めている。また、室内の温度や照明、音の刺激等に配慮し、こども一人ひとりが落ち着いて活動できるような環境調整を行っている。	季節や人数、活動内容によっては室温や湿度が適切でないと感じられる場面があり、換気や空調管理のさらなる工夫が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こどもの特性やその時々気持ちの状態に応じて、刺激を調整できるよう個別に使用できる部屋やスペースを確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		業務改善を進めるためのPDCAサイクルについては、月例の職員会議やケース検討の場を活用し、支援目標の共有や振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	面談や日々の連絡帳で寄せられた意見も併せて整理し、評価表の結果と総合的に捉えることで、保護者の意向を支援に活かすよう努めている。	評価実施が年1回に限られているため、より柔軟に意向を把握できるよう、随時意見を受け取れる仕組みづくりについても検討していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		職員の意見や気づきを把握するため、定期的な職員会議やミーティング、日々の申し送りの場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	第三者による外部評価を受けることで、事業所内部だけでは気づきにくい視点や助言を得られるよう努めています。	評価結果に基づいた改善計画を明確にし、定期的な振り返りや再評価を行うことで、業務改善が形骸化しないよう取り組んでいく必要があると考えています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		職員の資質向上を図るため、外部研修への参加を積極的に案内するとともに、法人内研修や事業所内研修を定期的実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		個別支援計画に基づき、こども一人ひとりの発達段階や特性、興味・関心に応じた支援プログラムを作成しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		個々のこどもの発達状況や特性について、日々の支援記録や行動観察を基にアセスメントを行い、職員間で情報共有を図っています。	保護者のニーズを十分に引き出しきれない場合や、支援計画に反映するまでに時間を要するケースも見受けられます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		日々の支援記録やミーティングを通して、こどもの強みや興味・関心を踏まえ、「こどもの最善の利益」を第一に考えた支援内容となるよう検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		支援計画については、作成後に職員間で共有し、ミーティングや日々の申し送りを通して内容の確認を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		フォーマルなアセスメントと日々の行動観察を組み合わせ、こどもの適応行動を多面的に把握し、支援計画に反映している。	アセスメントツールの活用方法や評価の視点にばらつきがあるため、職員間での共通理解を深め、より体系的に活用できる体制づくりが必要である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		支援計画の作成にあたっては、放課後等デイサービスガイドラインに示されている「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の各ねらいを踏まえ、アセスメント結果や日々の支援の様子、保護者からの意向を反映しながら、こども一人ひとりに必要な支援項目を設定している。	「移行支援」や「地域支援・地域連携」については、本人支援や家族支援と比べて記載内容が抽象的になりやすく、具体的な支援内容や方法が十分に明確化できていない場合がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		活動プログラムの立案にあたっては、管理責任者を中心に、支援に関わる複数の職員が参加するミーティングを定期的実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こどもの発達段階や興味・関心、当日の体調や様子に応じて活動内容を柔軟に見直し、同一の活動が継続して固定化しないよう配慮している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こども一人ひとりの発達状況、特性、興味・関心、集団への参加状況等をアセスメントにより把握した上で、個別活動と集団活動を適切に組み合わせた支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		支援開始前には、当日の利用児童の状況や支援目標を踏まえ、職員間で必ず打合せを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		個々のこどもの行動や情緒面の変化、成功体験や課題となった場面について共有し、支援のねらいや方法が適切であったかを確認している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		日々の支援内容やこどもの様子について、支援終了後に職員が記録を作成し、行動面・情緒面・関わり方などを具体的に残すことを徹底している。	記録の内容や視点が職員間でばらつきが見られる場合があり、支援の検証に十分活かされていないことがある。そのため、記録の書き方や着眼点について共通理解を深める必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		定期的にモニタリングの機会を設け、日々の支援記録や行動観察、保護者からの聞き取り等を通して、こどもの発達状況や支援の効果を継続的に確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		こどもの発達段階や特性に応じて、1つの活動に複数のねらいを持たせた支援を行うよう職員間で共通理解を図り、計画的に実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		日々の支援の中で、活動内容や遊び、役割分担等について、こども自身が複数の選択肢の中から選べるような関わりを行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		発達状況や行動特性、支援の経過を把握している職員が参画するよう配慮している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		必要に応じて支援会議やケース検討を実施し、こどもの発達状況や支援方針について共通理解を図っている。	関係機関との連携は個別対応にとどまる場合があり、事業所としての連携体制や情報共有の仕組みが十分に体系化されていない点が課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		保護者様を通し学校との情報共有をしています。お迎え時間変更等、迅速にご対応いただけます。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/>		同上にはなりますが、ほかの利用者様の園にお迎えに行くこともあり、都度連絡事項をいただいている現状です。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			今後移行する可能性を考慮し、体制を整える様にと考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			児童発達支援センターとの連携は主に必要時の相談にとどまっており、定期的・計画的なスーパーバイズの機会までは十分に確保できていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	<input checked="" type="checkbox"/>			交流や地域活動の機会は個別の状況や受入先の都合に左右されることが多く、定期的・継続的な交流の場を十分に確保できていない現状がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			毎月参加させていただき情報交換を図らせていただいています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			日々の支援終了後や連絡帳、口頭でのやり取りを通して、こどもの活動の様子や成長、気づいた変化について保護者へ丁寧に伝えるよう努めている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			必要に応じてペアレント・トレーニングの考え方を取り入れた声かけや関わり等の工夫について共有している。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			利用契約時や初回面談の際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担額や加算内容について、重要事項説明書の書面を用いながら、口頭でも丁寧に説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			面談では、日常生活や家庭での様子、保護者の困り感や希望を丁寧に確認するとともに、こども本人についても、年齢や発達段階に応じて遊びや関わりの中から気持ちや意向をくみ取るよう努めている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			放課後等デイサービス計画の作成後は、個別面談の機会を設け、計画書を実際に提示しながら支援目標や支援内容、支援のねらいについて、保護者にわかりやすい言葉で丁寧に説明している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>			定期的な個別面談や連絡帳、送迎時のやりとり等を通して、家族から子育てに関する悩みや不安を相談しやすい環境づくりに努めている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	保護者会や行事、意見交換の場を設けることで、保護者同士が子育ての悩みや情報を共有し、交流できる機会づくりに努めている。	保護者会や交流の機会への参加が一部の家庭に限られる傾向があり、すべての家庭が参加しやすい環境づくりが十分とは言えない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	相談内容に応じて児童発達支援管理責任者や管理者が中心となり、関係職員と情報共有を行いながら、迅速かつ適切な対応を心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	紙媒体とデジタル媒体を併用することで、保護者がそれぞれの生活スタイルに応じて情報を得やすい環境づくりを心がけている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	子どもや保護者に関する記録類は、施錠可能な書庫で管理するとともに、電子データについてはパスワード設定やアクセス権限を限定するなど、適切な管理を行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	視覚的な理解を促すために絵カードや写真、スケジュール表等を活用し、言葉だけに頼らない支援を行っている。また、短く具体的な言葉かけや、実際の動作を示しながら説明するなど、子どもの理解度に配慮した意思疎通を図っている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	地域の関係者と情報共有を行い、事業所の役割や支援内容について理解を得られるよう努めている。	現状では、地域住民を直接招待する行事の実施は十分とは言えず、地域に開かれた事業運営という点では更なる工夫が必要である。感染症対策や安全面への配慮から、交流の機会が限定的になっていることも課題である。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等に関する各種マニュアルを整備し、職員がいつでも確認できるようファイル管理や共有データでの保管を行っている。また、新任職員に対しては、入職研修の中でマニュアル内容の説明を行い、共通理解を図っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	業務継続計画（BCP）を策定し、地震・火災・風水害等の非常災害を想定した対応手順を整備している。計画内容については職員会議等で共有し、新任職員にも周知を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	定期的な面談や連絡帳を通じて、服薬内容の変更や体調面の変化についても確認し、必要な情報は職員間で共有する体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	面談時にアセスメントを行い聞き取りを行っています。	調理レクリエーションでお菓子を提供する場合、職員間で事前に情報を周知しています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	事業所では、安全計画を策定し、事故防止および緊急時対応に関する体制整備を行っている。ヒヤリ・ハット事例や過去の事故報告を基に、安全計画の内容を定期的に見直すとともに、職員会議等で情報共有を図っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	避難訓練や感染症対策の実施状況についても、掲示やお知らせを通じて情報提供を行い、家庭との連携を図るよう努めている。	定期的な面談やアンケート等を活用し、安全計画に関する説明や確認の機会を設けるとともに、家族等の不安や意見を把握し、計画や取組内容の見直しにつなげていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	事例ごとに状況や要因を振り返り、子どもの特性や環境面、職員の関わり方の視点から検討を行い、必要に応じて支援方法や環境設定の見直しにつなげている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	虐待防止に関する理解を深めるため、全職員を対象に虐待防止研修や人権研修への参加機会を確保している。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		<input checked="" type="checkbox"/>	身体拘束が想定される場合には、事前に子どもや保護者に対して、想定される場面、方法、時間、解除の判断基準等について丁寧に説明し、同意を得た上で児童発達支援計画に具体的に記載している。		